文化・芸術

「市内風景」

1941年12月、油彩、板
38・0㌢×46・0㌢（個人蔵）

松本竣介（1912～48年）

寂しく、ひっそりとした都会の片隅の情景です。丸い窓の建物は、当時の東京の一ツ橋講堂であったとされます。画面の右隅には、サインとともに「16・12」と年紀が記されています。昭和16（1941）年12月といえば、太平洋戦争勃発の時です。

松本竣介の作品の中の「昭和モダン」は、拡大する戦争のなかで、都会の華やぎの幻想から、緊張と不安をいただきながらも、詩情をわすれないリアリズムに変容していったのです。

ところで、この寂しいけれども、芯の通った強い風景画は、80年前に描かれています。でも、これからどうなるのだろう、いつになったら明けるのだろうかという、新型コロナウイルス禍の今でも、どこか通じるようなひとりの市井の画家の「不安」の表現でもあったのです。（田中）

〈名画の扉〉

大川美術館企画展
「松本竣介《街》と昭和モダン展」から